

JCESニュース

Japan Comparative Education Society

NO.6

第40回大会開催によせて

大会準備委員長 西野節男

日本比較教育学会第40回大会は本年6月26日、27日に名古屋大学で開催されます。名古屋（東海）地区での開催は1993年以来11年ぶり、また名古屋大学を主会場とするのは今回が初めてとなります。

日本比較教育学会では学会創設40周年が近づき、現在は『40周年記念誌』の編纂など記念事業が鋭意進められつつあります。大会も今回が40回目となりますので、40周年記念特別シンポジウムとして「比較教育学の未来：新しい地平を拓く」を企画致しました。40年間の学会の来し方を顧みながら、比較教育学の将来を展望し、その研究のあり方を真剣に考える機会にできればと存じます。大会案内にも記しました通り、馬越徹会長と世界比較教育学会（WCCES）事務局長のマーク・ブレイ氏（香港大学教授）にご講演いただく予定です。二つの基調講演に続く3名の会員によるプレゼンテーションも魅力的な構成とすべく準備委員会で検討を重ねてまいりました。この機会に、比較教育学研究の発展に向けて学問的でクリティカルな議論が交わされることを願っております。

また、課題研究のセッションとしては「教員の適格性に関する比較研究」「学校ガバナンスの国際比較 - その現状と課題」の二つを予定しております。いずれも近年とみに関心が高まっているテーマでもあり、こうしたテーマに関する比較教育学研究の意義・重要性を広く社会に知ってもらうために、公開とすることも検討中です。

加えて、比較教育学研究のテーマの広がりとアプローチの多様さ、そこから生まれる斬新な研究内容を是非、自由研究のセッションでご発表いただきたいと存じます。学会全体の研究の充実ぶりを示す自由研究発表となりますよう、会員の皆様多数の発表申込みをお待ちしております。また、大会スケジュールの最後になりますが、第37回京都大会以来3年ぶりに「ラウンドテーブル」を設けます。こちら積極的にご利用・ご企画いただきますようご案内申し上げます。新たな研究の展開のために、また会員相互の研究情報交換の場として、肩の力を抜いた議論ができればと存じます。

今回は名古屋大学の文系総合館を主会場としますが、教育学部をはじめ周囲の建物も耐震改修工事が進み綺麗なキャンパスに変わりつつあります。また、昨年12月に地下鉄延伸で大学までの路線が開通し、現在は名古屋大学駅が地下鉄名城線の終点（本年10月に環状化予定）となっています。会場への交通も一層便利になりました。多数の皆様のご参加を、準備委員会一同、心よりお待ちしております。

イギリス国際・比較教育学会

会長 マイケル・クロスレイ

（ブリストル大学比較・国際教育学教授）

イギリス比較・国際教育学会（The British Association for International & Comparative Education 以下、BAICE）は、以前のイギリス比較・国際教育学会（the British Comparative & International Education Society, BCIES）とイギリス海外教育研究教師・研究者協会（The British Association of Teachers & Researchers in Overseas Education, BATROE）が1997年9月に合併した結果生まれました。これらの団体はもともと広範な海外会員を擁し、比較・国際教育の分野における活動の確固たる伝統がありました。

今日の BAICE は、比較・国際教育学という現代的学問分野のあらゆる次元での研究の推進、政策の立案と評価、教育およびネットワーキングを通じて、そうした従来からの仕事を引き続き発展させるとともに、この分野の再活性化と諸概念の再構築に貢献し続けています。

BAICE はこのように研究者、教師、政策策定者、学生、非政府組織や開発援助機関、その他の関係団体スタッフからなる専門団体であり、学会の趣旨に賛同する全ての人々が会員となることができます。

入会は、ブリストル市アンジェリンにあるブリストル大学の教育大学院所属のアンジェリン・バレット会員担当秘書（Angeline.Barrett@bristol.ac.uk）を通じて簡単に行うことができます。

BAICE はとくに学際的な研究の促進に熱心であり、関連組織・団体の目的遂行に対して支援を行っています。そうした関連組織・団体とは、英国国際教育・訓練フォーラム（UKFIET）、ヨーロッパ比較教育学会（CESE）、英国社会科学アカデミー、世界比較教育学会（WCCES）です。

BAAICE 会員には、国際的なピア・レビューを行う本学会の機関誌『Compare』を世界中ど

こへでも配布します。同誌は年に4回出版され、実証的な比較・国際研究の綿密な論文、学術的な分析、方法論・理論研究、および比較・国際教育学分野に関連ある書評を内容としています。

毎年、BAICE はその時々的重要なテーマに関する国際会議を開催しています。UKFIETと共催で隔年に教育と開発に関するオクスフォード国際会議（www.cfbt.com/oxfordconferenceをご覧ください）が開催しています。2004年の BAICE 大会は9月3-5日にサセックス大学国際教育センターにおいて、以下のテーマで開催されることになっています。すなわち、「21世紀の教育」、「矛盾、和解そして建設と改造」です。

同会議はフィオナ・リーチ（Fiona Leach）博士が主宰しますが、登録に関する詳細情報は baice2004@sussex.ac.uk で入手することができます。さらに、BAICE のホームページは、本学会に関するもっと詳しい内容や、英国で開催される定期的な一日会議、会員による研究や出版に関する情報源となっています（<http://www.baice.ac.uk>を参照）。

WCCESの構成メンバーとして、BAICE は世界中の他の学会との国際的連携強化を願っています。従って、日本比較教育学会のニューズレターで BAICE について紹介できることを大変嬉しく思います。私たちの学会および会員の間で、もっとコンタクトを取り合い、将来、何かの活動を共同で実施できればと思います。



（イギリス国際・比較教育学会ロゴマーク）

『学会40年の歩み』の編集

記念誌刊行委員長 齊藤 泰雄

すでにご案内の通り、本学会が今年創設40周年を迎えるにあたり、記念誌を刊行することが決定されました。第40回大会までの刊行をめざして、現在、同誌刊行委員会で編集作業が進行中です。

委員会での検討の結果、本誌を「資料編」「座談・エッセイ編」「通史編」の三部構成とすることにしました。資料編は、一部はその準備段階数年間の前史も含めて、文字通り、1965年の学会創設以来の、学会に関する資料類を收集整理するものです。学会創設の経緯、会員数の推移、歴代役員の一覧、年次大会記録、学会紀要各号の目次、規約類の改正、WCCES関係の記録等を整理中です。特に注目すべきは、創設以来長らく学会の指導的地位におられた故手塚武彦氏が個人的に収集された関係資料類が段ボール数個分発見され、学会草創期の活動を知る上できわめて貴重な資料となったことです。手塚文書の中には、時代の経過を感じさせるガリ版刷り、手書きの黄色に変色した資料類も多く含まれていました。資料編では、これらの資料をベースに、40年間を概観する年表を作成しています。

座談・エッセイ編は、会員歴が長く、また役員等を経験されたベテラン会員に、学会の過去、現在、未来を肉声で語ってもらうという趣旨です。「座談」は、歴代会長経験者6名の出席を得て、それぞれに、比較教育学研究との出会い、会長時代を振り返っての学会運営上の留意や苦心談、学会の将来への期待や提言などを自由に語って頂きました。またこれとは別にベテラン会員10名ほどに、短いエッセイを寄稿してもらっています。

上記の作業は、ほぼ終了し、現在は、最後の「通史編」を執筆中です。ここでは、学会の歴史を、(1)学会創設前史(1961~1965年)、(2)第一期(1965~1980年・平塚会長時代)、(3)WCCES東京大会(1980年)、(4)第二期(1981~1990年)、(5)第三期(1991~2003年)に時期区分し、各編集委員が分担執筆することになっています。

学会30周年の際には、学会紀要(第20号)に特集が生まれ、また「日本比較教育学会の歩み

(30年)」がまとめられました。40周年というのは、やや中途半端な気もしますが、今回の編集作業を通じて、10年後の50周年では、もはや散逸してしまう恐れのある記録や記憶が多いことが分かり、この段階での收集整理は、タイムリーなものと感じています。

公開講演会の開催

国際委員長 二宮 皓

国際委員会主催により、2月14日(土)午後、広島大学において、シドニー大学の教授で、元オーストラリア・ニュージーランド比較国際教育学会長のアンソニー・ウェルチ(Anthony Welch)先生をお招きして講演会を開催しました。演題は「高等教育における中国・アセアンの関係」ということで、高等教育サービスのWTO/GATS問題を中心に講演いただきました。馬越会長をはじめ多数の会員の方にお集まりいただきました。

ウェルチ先生の講演は、21世紀の知識経済社会の中での高等教育の果たす役割が増大し、その市場化も急速に進行しているが、高等教育システムの間不均等が生じること。特に高等教育サービスを「輸入する」する中国やアセアン諸国は今後大きな問題に直面するという意味で十分に関心を持たなくてはいけないこと。欧米諸国の大学が高等教育サービスの60~70%を独占し、専ら輸出することになるという意味で、グローバル市場の監視が必要だということ。他方で、中国、シンガポール、マレーシアの事例により、グローバル化する市場の中でのレジオナル化が出現しつつあること。こうした多様な観点からの興味深い講演をいただきました。



事務局便り・お知らせ

新入会員

(2003年8月～2004年2月、入会申込み順)

- 木屋 信明 大阪大学大学院生
- 林 未央 東京大学大学院生
- 河合 紀子 ソウル大学大学院生
- 山下 一義 国際協力銀行
- 河野 善彦 国際協力銀行
- 浅沼 薫奈 桜美林大学大学院生
- 深野 政之 桜美林大学大学院生
- 針塚 瑞樹 九州大学大学院生
- 劉 蓮蘭 聖和大学大学院研究員
- シャウカニ・ハサン・ライス
カルタナガラ大学
- 廣瀬健一郎 文化女子大学室蘭短期大学
- 滝本 葉子 (株)パシフィックコンサルタ
ンツインターナショナル
- 王 国輝 名古屋大学大学院生
- 小野瀬善行 筑波大学大学院生
- 中村 夕衣 京都大学大学院生
- 石川 裕之 京都大学大学院生
- ペー・シュウ・キー 京都大学大学院生
- 古田 薫 京都大学大学院生
- 太田 美幸 一橋大学大学院生
- 平田 淳 弘前大学

(2004年2月13日現在、通常会員638名、学生会員172名で、会員総数810名)

会員名簿の改訂について

2004年度は会員名簿の改訂を予定しております。同封の名簿データをご確認いただき、勤務先や住所など変更・訂正がおありの方は事務局までお知らせください。ファックス、メール、郵便いずれでも結構です。

会費納入のお願い

会費納入にご協力をお願いします。通常会員年9,000円、学生会員は年5,000円です。振込先は郵便振替口座 00820-6-16161 日本比較教育学会事務局です。

本学会では当該年度の会費納入の確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしております。未納の方は是非納入いただきますようお願い

いたします。また、2004年度分につきましても受け付けておりますので、早めに納入いただければ大変助かります。

40周年記念事業への募金のお願い

学会創設40周年記念事業に対して、昨年10月以来、本年3月2日までの間に103名(全会員の13%)の会員の方々からご寄付を頂戴いたしました。しかし、現時点での募金額は当初目標に遠く及ばず、記念事業の実施が危ぶまれております。会員の皆様におかれましては、出費多端の折とは存じますが、趣旨をご理解いただき募金にご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

・企画中の記念事業： 40周年記念誌の編纂・刊行、 40回大会へのWCCES事務局長招致、WCCES途上国支援事業への協賛

・募金：一口2,000円(一口以上募金いただいた方には、「日本比較教育学会40年の歩み」を贈呈する予定です)

・募金の振替先
00840-1-61320 日本比較教育学会創設40周年記念募金
お問い合わせは学会事務局まで

学会ホームページおよびメールアドレス

学会ホームページ(日本語・英語版)を開くには、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jces/index.html>です。事務局アドレスはjces@educa.nagoya-u.ac.jpです。40回大会に関しては大会準備委員会メールアドレス jces40@educa.nagoya-u.ac.jp にお願ひします。また、大会案内は<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/jces>で御覧いただけます。

編集後記

桜前線の北上が話題にのぼる季節になりました。学会事務局と大会準備委員会とが重なり、西野事務局長・大会準備委員長はじめスタッフは大忙しの春です。その中で予定どおりニューズレター第6号をお届けでき、ほっと一息です。(Y.O)

学 会 事 務 局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 1

名古屋大学大学院教育発達科学研究科内

TEL&FAX : 052-789-2634 E-mail: jces@educa.nagoya-u.ac.jp